

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

東京経済大学コミュニケーション学部 社会調査グループ

以下に報告する内容は、山田晴通が授業を担当した2014年度の「社会調査実習」において、実習として実施された社会調査の成果です。この科目の当年度の履修者は5名で、全員が最終的に単位を取得しました。

一年間の実習は、全体的に当初シラバスに提示した計画よりも遅れて進行し、報告書の完成は翌年度にずれ込みました。また、例年よりも少人数での取り組みとなり、従前とは異なる手法をとったこともあり、結果的に調査は、以下の報告の中でも言及があるように、問題点も孕むものとなりました。しかし、受講者諸君の自主的な取組で何とか以下のような形にまとまり、成果の公表に漕ぎ着けることができました。

報告書の作成に至る実習の各段階では、山田が適宜必要な助言を与えましたが、報告書の構成・文章の執筆に際しては、受講者5名の自主的な努力が最大限尊重されています。本報告の文責は、受講者5名と山田が、等しく分ちもつものです。

この調査は、予備調査や質問紙調査にご協力をいただいた、各施設のスタッフの皆様、ご回答いただいた保護者の皆様をはじめ、様々なご支援を頂戴して実現したものです。ご支援、ご協力をいただきました全ての皆様に、感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせは、東京経済大学山田晴通研究室（Tel/Fax 042-328-7923, yamada@tku.ac.jp）までお寄せください。

2014年度東京経済大学コミュニケーション学部社会調査グループ：久保木麻衣，寺田詢平，土方恵美，福田誠，森健斗，（指導教員）山田晴通

目次

1. はじめに
2. 調査概要
 - 2-1 調査テーマの選定と予備調査
 - 2-2 調査対象
 - 2-3 仮説の検討

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

- 2-4 調査項目の選定と質問票の作成
- 2-5 調査方法
- 3. 本調査結果
 - 3-1 質問票回収状況と問題点
 - 3-2 集計方法
 - 3-3 仮説の検証
- 4. 結論
- 5. 調査における課題・問題点（おわりに）
- 6. 付録
 - 6-1 予備調査質問票原本
 - 6-2 本調査質問票原本
 - 6-3 単純集計結果
 - 6-4 自由記述回答のまとめ

1. はじめに

2015年春から、「子ども・子育て支援新制度」が始まりました。この新しい制度は、消費税率が10%に引き上がった際の税収7000億円使ってスタートする子育て支援制度の柱となるものです。制度を見直すこととなった理由としては、共働きでないと生活できない世帯が増えて、潜在的な待機児童が80万人以上とも言われているにも関わらず、保育を必要としている人の数に施設の整備が追いついていないという現状があるからです。このような現状を打破するために、国が統一の基準をつくり、地域ごとの潜在的な待機児童数を把握して、各自治体にその数に応じた施設の整備を義務付けています。政府は現在、施設整備を急ぐために、規制を緩和して、認可施設の種類や数も増やしていこうとしています¹⁾。

私たちが通う東京経済大学がある国分寺市は、東日本大震災など大きな社会情勢の変化を受けて、2014年春に第二次国分寺市環境基本計画を策定しました。その中で、未来の子どもたちへ引き継ぐ「こくぶんじの豊かな環境」を望ましい将来像として設定しています。これは、2004年に設定された第一次国分寺市環境基本計画に謳われた「環境負荷の少ない持続可能な社会の構築」と比べて、「市の未来を担う子どもたち」と対象を明確にしています²⁾。

社会調査のテーマを選ぶために情報収集と議論を行ない、こうした状況について知った私たちは、国分寺市周辺で「子どもたち」を育てている保護者の方々が、国分寺市を「子どもを育てる環境」としてどのように感じているのかを知りたいという思いが強くなりました。これは、現在はまだ学生の私たちが、将来育児をする可能性のある立場として、育児の実態

や現状への理解を深めるべきであると考えたからです。私たちは、社会調査士資格の認定科目である「社会調査実習」の一環として、国分寺市及び周辺地域における育児実態調査を行うことにしました。本調査では、国分寺市内の幼稚園・保育園に質問票の配布・回収の協力を仰ぎ、その上で各園にお子さんを通園させている保護者の方々に質問紙へご回答頂きました。本調査は、調査結果の分析と考察を通して、何らかの形で国分寺市のまちづくりないし育児環境づくりに資することを目標としました。

前例のない5人という少ない人数での実習は、予想以上に大変なものでした。ひとりひとりの作業量が大変多く、話し合い、作業の時間、園への訪問、質問票の配布や回収など、それぞれが多く時間を費やしました。社会調査の難しさとやりがいを実感し続けた1年間でした。様々な課題がありましたが、無事に本報告書を作成し、発表することができたのは、現地調査にご協力いただいた幼稚園・保育園の方々、また保護者の皆様のおかげであると実感しております。皆様に深くお礼申し上げます。

《参考資料》

- 1) 藤野優子 (2014年) NHK 解説委員会「どう変わる? 保育所の仕組み」。
 〈<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/178706.html>〉 2014年5月7日アクセス。
- 2) 国分寺市役所 (2014年) 第二次国分寺市環境基本計画
 〈http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/260/2-kihonkeikakudai3shou.pdf〉

2. 調査概要

2-1 調査テーマの選定と予備調査

本調査では、「国分寺市及び周辺地域における育児の実態」をテーマとしました。私たちが通う東京経済大学がある国分寺市には、数多くの保育園や幼稚園があり、よく散歩で外出している子どもたちを見かけます。そして国分寺市は、歴史的環境を活かし自然と暮らしが融和した街を目指しており「未来の子どもたちへ引き継ぐこくぶんじの豊かな環境」という将来像を設定しています。

育児制度が変化しようとしている時期にあたり、良好な環境を未来の子どもたちに残そうとしている国分寺市に住み、育児をしている方々が国分寺市で育児をすることに対してどのような考えを持っているのか、育児の実態はどのようなものなのか、ということに私たちは関心を持ち、明らかにしたいと考え、調査テーマとして「国分寺市及び周辺地域における育児の実態調査」を選定しました。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

テーマを選定した段階で、私たちはまず、育児にあたっている保護者の方々を対象とした、何らかの全数調査が実施できないかと考えました。そこで、国分寺市内の幼稚園・保育園といった施設に協力を求める形での全数調査の可能性を探るため、アンケート形式の予備調査を企画して6月に実施しました。予備調査は、本調査の仮説の検討作業と並行して行なわれました。

予備調査を行うにあたり対象は、国分寺市内の幼稚園・保育園としました。電話をかけて協力をお願いをした幼稚園・保育園合わせて20ヶ所のうち、実際に訪問した対象施設の数は8ヶ所となり、郵送でお答え頂いた対象施設が1ヶ所でした。に加え、国分寺市役所子ども福祉部保育課にご協力を頂き配布した質問票にご回答いただいた7カ所を合わせて、計16ヶ所から回答を得ました。

予備調査を行った意図は2つあります。1つ目は、現在の幼稚園や保育園はどのような取り組みを行っているのか、など本調査を行うに当たって参考となる情報を集め、現状を把握することです。2つ目は、保護者を対象として行う本調査に各施設がどの程度の協力をいただけるのかを把握することです。

予備調査の対象は原則として、各施設の代表者（園長）としました。ただし、代表者が不在の場合は、他の代理職員によるご回答をお願いしました。アンケートには、自由記入形式のおもな質問3問に加え、本調査への協力に関する設問を、選択肢形式と自由記入形式で3問設けました。回答内容は「予備調査報告書 国分寺市の育児実態調査」（付録参照）にまとめ、10月に関係施設等に配布しました。

予備調査は幼稚園・保育園の現状を把握すること、また、本調査への協力の可否を知ingことを目的としたものでした。その意味では、ご協力をいただけそうな見込みのある施設を把握することができたことは大きな収穫でした。一方、予備調査の質問票において質問内容の中心としていた「自然とのふれあい」については、仮説の検討を重ねる中で、結果的に本調査に直接的に結び付けることはできませんでした。

予備調査において、直接園長さんのお話を伺う機会があり、自分自身の目で施設を見学できたということは調査を行ううえで有意義でした。また、相手先に出向き、直接調査の依頼をすることを予備調査の段階でできていたので、本調査の依頼をする際には特に問題もなく、手際よく本調査を行うことができました。

2-2 調査対象

調査テーマ「国分寺市及び周辺地域における育児の実態調査」の対象として全数調査を行うことを考えた場合、母集団となる潜在的な調査対象者の把握にはいくつかの方法が考えられます。例えば、行政の全面的な協力が得られれば、一定の年齢の子どもがいて、子ども手当の受給対象者になっている市内のすべての世帯に対して、調査票を送付してもらうという

手法もあり得ます。しかし、実際に調査が実施できる実現可能性を考え、私たちは、国分寺市内の幼稚園・保育園（※以下「対象施設」と表記）に子どもを通わせている国分寺市及び周辺地域に住む保護者の方々を対象に全数調査を目指しました（「国分寺市及び周辺地域に住む保護者」を対象としていますが、以下の文章では「周辺地域に住む保護者」といった表現を省略して表記します）。この場合、そもそも幼稚園にも保育園にも子どもを通わせていない世帯や、何らかの事情で市外の幼稚園や保育園に子どもを通わせている世帯が母集団から外れることとなりますが、こうしたグループは、そもそも把握が困難であり、事例数もさほど多くはないものと思われましたので、対象から外すことはやむを得ないと考えました。

調査を行った2014年の時点で、国分寺市には幼稚園6施設、保育園21施設の計27施設がありました。結果的に、予備調査と直接訪問による聴き取りを通して、このうちの幼稚園2施設、保育園8施設から、質問票調査へのご協力をいただくことができました。手続きとしては、母集団に対して有意抽出により、調査対象施設を絞り込んだこととなります。それぞれの施設については、子どもを通わせている保護者の全数調査を行う形をとりました。

2-3 仮説の検討

この調査は、「国分寺市及び周辺地域における育児の実態調査」を調査テーマに掲げており、対象施設に子どもを通わせている保護者の方々が国分寺市で育児をすることをどのように考えているか、現在の育児の実態はどのようなものかを調査・分析するものです。このテーマを踏まえ、予備調査と並行して、仮説の検討を行いました。その作業の過程では、特に注目して検討する点として以下の4つの項目を設定しました。

これらの項目は、厳密に言えば仮説の形になっていませんが、実際の検討作業の中では、これら4項目を「理論仮説」と呼んで作業を進めました。より厳密に仮説として扱える形にするならば、例えば「子どもの医療機関の充実と育児満足度の相関性」は、「子どもの医療機関が充実している人ほど育児に満足している」といった仮説を意味しているということです。

- ①子どもの医療機関の充実と育児満足度の相関性
- ②親の育児ネットワークの多様性と育児満足度の相関性
- ③街に対する好感度と育児満足度の相関性
- ④育児に対する関心の高さと育児に対する消費の相関性

この4つの項目を調べることで、先に述べた「国分寺市で育児をしている方々は国分寺市で育児をすることに対してどのような考えを持っているのか、育児の実態はどのようなもの

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

なのか」を解明する手がかりが掴めるのではないかと考えました。

1つ目の理論仮説は、「子どもの医療機関が充実している人ほど育児に満足している」です。これらを調査するために、実際に質問票調査を通して検証する仮説（作業の中で「作業仮説」と称していましたので、以下、この報告書ではこの呼称を踏襲します）を、以下のよう

に設定しました。

- ・国分寺の医療環境に満足していると回答した人ほど、国分寺市に満足している
- ・国分寺の医療環境に満足していると回答した人ほど、国分寺市の育児環境に満足している
- ・国分寺の医療環境に満足していると回答した人ほど、医療機関に多く通院している
- ・かかりつけの病院数が多いと回答した人ほど、国分寺市での育児に満足している
- ・かかりつけの病院数が多いと回答した人ほど、国分寺の医療環境に満足している
- ・医療機関に多く通院していると回答した人ほど、国分寺市での育児に満足している

私たちは、「医療環境」を「個人が利用する医療機関の数や種類や分布、その医療機関のサービス」と広義に捉えました。子どもの年齢が低いほど、医療機関を利用する頻度は多いと思います。医療機関に満足していることが国分寺市で育児をする際の満足度に繋がるのではないかと考えました。

2つ目の理論仮説は、「保護者の育児ネットワークの規模が大きい人ほど育児に満足している」です。これらを調査するために以下の作業仮説を設定しました。

- ・マンションやアパートに居住していると回答した人ほど、親しい育児仲間が多い
- ・子どもの人数が多いと回答した人ほど、親しい育児仲間が多い
- ・育児に関して相談できる先生の数が多い人ほど、国分寺市での育児に満足している
- ・家族の育児協力が満足していると回答した人ほど、国分寺市での育児に満足している
- ・育児仲間が多いと回答した人ほど、育児に対する不安要素が少ない
- ・育児仲間が多いと回答した人ほど、地域社会に満足している

育児をするにあたり、一人では解決出来ず、誰かに相談したくなる機会があるのではないかと考えました。また、育児に関する情報交換も重要なのではないかと考えました。これらのことから日頃から多様なネットワークを築いている人ほど、育児に対する満足度が高いのではないかとという理論仮説をたて、裏付ける作業仮説を考えました。

3つ目の理論仮説は、「街に対する好感度が高い人ほど育児に満足している」です。これらを調査するために以下の作業仮説を設定しました。

- ・国分寺市を住みやすいと感じている人ほど、国分寺市の遊び場や安全等に満足している
- ・国分寺市に住んでいる期間が長いと回答した人ほど、国分寺市での育児に満足している
- ・国分寺市を住みやすいと感じている人ほど、公共施設に満足している
- ・現在の住居に住んでいる年数が長いと回答した人ほど、国分寺市での育児に満足している

国分寺市を住みやすいと感じている人は公共施設や安全性など街に対して満足していると想定しました。育児をするうえで、街との関わりは深いと考え、国分寺での育児に満足している点と街への好感度には相関性があるのではないかと考え、裏付ける仮説を考えました。

4つ目の理論仮説は、「育児に対する関心が高い人ほど育児に対する消費が多い」です。これらを調査するために以下の作業仮説を設定しました。

- ・習い事をさせている家庭ほど、インターネット接続端末を持たせている
- ・共働きの家庭ほど、習い事をさせている

私たちは、習い事をさせている家庭は子どもへの支出が多く育児に対する関心が高いのではないかと考えました。そこで、習い事やインターネット接続端末のように、育児に加えてかかる費用について質問することで相関がないかを調査しました。

2-4 調査項目の選定と質問票の作成

以上の仮説を検証するため、大きく5つの項目に分けて調査のための質問票を作成することにしました。

- ① フェイス項目
 - ・性別, 年齢, 職業, 住まい
- ② 医療環境について
 - ・かかりつけの病院は何か所あるか
 - ・国分寺市の医療環境に満足しているか

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

- ③ ネットワークについて
 - ・幼稚園・保育園に信頼できる先生はいるか
 - ・育児を助け合える親戚や知人はいるか

- ④ 国分寺市満足度について
 - ・国分寺市の住みやすさについて満足しているか
 - ・国分寺市の施設に対して満足しているか

- ⑤ 育児消費について
 - ・子どもに習い事はさせているか
 - ・子どもにインターネット接続端末を持たせているか

- ⑥ その他
 - ・育児について思うこと（自由記述）

こうした項目を、具体的な質問の文言に落とし込んだ上で、A3判用紙両面（A4判4ページ相当）に収めるために、質問文の整理や圧縮を行ないました。この作業は、夏休みを挟んで質問票の印刷～配布開始の直前である、10月上旬まで続けられました。

最終的な質問票は、以下の内容の質問を盛り込みました。（付録参照）

- ① フェイス項目
 - ・性別，年齢，子どもの通園状況，同居家族，住まい，
 - ・家計支持者の勤務形態／職業，居住年数，通園形態

- ② 医療環境について
 - ・子どもの医療機関の利用頻度
 - ・子どものかかりつけの医療機関の数
 - ・国分寺市の医療環境への満足度

- ③ ネットワークについて
 - ・幼稚園・保育園にいる信頼できる先生の数
 - ・同居家族の育児協力についての満足度
 - ・育児を助け合える親戚か知人が近隣にいるか
 - ・子育てに関する不安や悩みはあるか

- ・困ったときにどうしているか
- ④ 国分寺市満足度について
 - ・国分寺市の住みやすいと思うか
 - ・国分寺市での育児に満足しているか
 - ・国分寺市の施設に対して満足しているか
- ⑤ 育児消費について
 - ・子そだてに関する考え、信念
 - ・子どもに習い事はさせているか
 - ・子どもにインターネット接続端末を持たせているか
- ⑥ その他
 - ・子育てについて思うこと (自由記述)

2-5 調査方法

・調査期間

本調査である質問票調査は、2014年の10月中旬から12月の初めにかけて対象施設の都合が良い時期をそれぞれ1~2週間ほどとり、質問票の配布、回収を行いました。

・質問票の配布、回収方法

質問票の配布方法は、国分寺市内の協力を得られた対象施設に質問用紙を郵送または調査員が持ち込みで届け、対象施設を通して保護者の方々に配布する形をとりました。具体的には、角封筒に、調査への協力依頼の文書、質問票、回収用の小さい封筒を入れたものを、各施設が求める数だけ用意し、郵送ないし持ち込みで施設に届け、個々の保護者への配布方法については各施設にお任せしました。

また、回収方法は、保護者に質問票を対象施設に提出していただき、回収し終わった質問票を調査員が対象施設までまとめて取りに行く方法を原則としました。一部の施設(2幼稚園、1保育園)では施設の意向を踏まえ、質問票と一緒に切手を貼付した返信用封筒を渡し、保護者が回答済みの質問票を調査グループ宛に直接郵送する方法をとりました。

・調査方法の留意点

質問票の配布・回収は各園の行事予定を配慮し、都合のよい期間で実施しました。このため、同一期間では行っていません。全数調査であるため、対象施設への質問票の配布枚数は

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

各施設の規模によりばらつきがあります。基本的に、1世帯数に1票の質問票として本調査を実施しました（例えば、同じ施設に兄弟（2人以上）を通園させている場合には、質問票を1枚のみの配布としました）。また、各施設には、施設側から求められた数の質問票を渡しました。

3. 本調査結果

3-1 質問票回収状況と問題点

施設ごとの配布票数と回収票数は以下の通りでした。総数780票を各施設に送付、ないし、持ち込み、返信用封筒を使用した郵送によって回収した78票を含め、361票を回収しました。このほか、2015年1月中旬になってから郵送で到着した1票がありましたが、既に集計作業に入っていたため、開封せずにおき、回収票数にも加えていません。

施設ごとの配布、回収状況は、下記の表にまとめた通りですが、ここで調査実施後に判明した重大な問題がありました。回収された361票のうち、実に4.7%に相当する17票がまったくの未記入票＝無効票でした。そのため、有効票は344票となりました。また、質問によっては、ご回答を頂けなかった項目があり、その結果、分析の際の全体の度数が統一した値になりませんでした。原因としては、事前に質問票を各施設に渡す際の説明が十分でなかったことが挙げられます。各施設には、必要とされた数の質問票を用意して渡しましたが、その際に、保護者に配布せずに残った未配布票の処理についての説明を、全くしませんでした。各施設が、保護者数と一致する票数を提示されたのに対し、配布後に一票も手元に残らない場合には問題はないのですが、施設側が、実際の保護者数＝配布する票数より多めの数を求めている場合には、調査グループ側では、実際に保護者へ配布された正確な票数が分からないこととなります。

そうした場合に、配布されなかった未記入の質問票を、施設がそのまま廃棄する可能性と、回収された記入済みの有効票と一緒に回収される可能性が考えられます。回収された未記入票は、未配布票が、有効票と一緒に回収されたからではないかと考えられます。もしそうだとすれば、そもそも配布総数から、そうした未配布票の数を除くべきなのですが、回収された未記入票をすべて未配布票と見なしてよいという保障はありません。もし、すべての未記入票を未配布票と見なすなら、配布数も17票減って763票となるため、有効票回収率は45.0%となります。また、さらに、未配布票を回収に回さず、破棄した施設があったとすれば、配布票はさらに減り、有効票回収率は上がります。しかし、こうした経緯を事後的に確認することは事実上不可能と判断しました。

したがって、本調査の回収率は、以上のような数値が不正確になる事情を孕んだ上で、無

効票を含む回収率 46.2%，有効票のみの回収率 44.1% ということになります。

施設名	配布数	回収数	回収手段	回収率
A 保育園	80	46	訪問	57.5%
B 保育園	60	34	訪問	56.6%
C 保育園	95	45	訪問	47.4%
D 保育園	75	*	郵送	—
E 保育園	120	46	訪問	38.3%
F 保育園	70	36	訪問	51.4%
G 保育園	62	21	訪問	33.9%
H 保育園	80	55	訪問	68.8%
I 幼稚園	88	*	郵送	—
J 幼稚園	50	*	郵送	—
(郵送回収分計)	(213)	78		36.6%
総 数	780	361		46.2%
(有効票数)	780	344		44.1%

3-2 集計方法

① 集計方法

依頼を受けてくださった各保育園・幼稚園の保護者の回答を、各保育園・幼稚園に訪問し手渡しで受け取る方法と、各保育園・幼稚園に大学の研究室宛に郵送をしていく方法のふたつの方法を用いて、回答を回収し、各質問のコーディングを行った上で、そのデータを、Google スプレッドシートを用いて集計しました。

② 分析方法

調査対象者は満 19 歳～55 歳以上の国分寺市内の幼稚園・保育園にお子さんを通わせている保護者の方を対象としました。最終的な対象者は 344 人であり、男性 16 人 (4.7%)、女性 314 人 (91.3%)、未回答 14 人 (4.1%) でした。年齢比は 19 歳以下が 1 人 (0.3%)、20～24 歳が 3 人 (0.9%)、25～29 歳が 13 人 (3.8%)、30～34 歳が 70 人 (20.3%)、35～39 歳が 140 人 (40.7%)、40～44 歳が 90 人 (26.2%)、45～50 歳が 16 人 (4.7%)、55 歳以上が 1 人 (0.3%) でした。

調査は 2014 年の 10 月から 12 月の二か月の間で各幼稚園、保育園の都合が良い 1～2 週間で実施しました。調査対象には、実施期間中に質問用紙を対象施設に郵送、または調査員が持っていき、対象者による返信、または対象施設により回収していただいた質問用紙を調査員が取りに行き回収しました。調査票は A3 サイズ 1 ページでした。

調査票は「あなたのことについて (フェイス項目)」の項目、「医療環境について」の項目、

「ネットワークについて」の項目、「国分寺市満足度について」の項目、「育児消費について」の項目、「その他（自由記述）」の項目で構成されていました。ここでは本研究に用いる質問項目についてのみ記述します。

対象者の性別を把握するために、「あなたの性別をお答えください」という質問項目を用いました。選択肢は「男性」「女性」の2つでした。分析で使った最終的な選択肢は「男性」を1、「女性」を2としました。対象者の年代を把握するために、「あなたの年代にあてはまるものに○をつけてください」という質問項目を用いました。選択肢は「19歳以下」「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」「35～39歳」「40～44歳」「45～50歳」「55歳以上」の8つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「19歳以下」を1、「20～24歳」を2、「25～29歳」を3、「30～34歳」を4、「35～39歳」を5、「40～44歳」を6、「45～50歳」を7、「55歳以上」を8としました。対象者の現在の住まいに住んでいる年数を把握するために「あなたは現在のお住まいに住んでからどれくらいですか」という質問項目を用いました。選択肢は「1年未満」「1年以上5年未満」「5年以上10年未満」「10年以上20年未満」「20年以上」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「1年未満」を1、「1年以上5年未満」を2、「5年以上10年未満」を3、「10年以上20年未満」を4、「20年以上」を5としました。

医療機関の満足度を把握するために以下3つの質問項目を用意しました。1つ目に、「あなたは国分寺市および近隣の医療機関の環境に満足していますか」という質問項目を用いました。選択肢は「満足している」「やや満足している」「どちらかという満足していない」「不満がある」「わからない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「満足している」を1、「やや満足している」を2、「どちらかという満足していない」を3、「不満がある」を4、「わからない」を5としました。2つ目に、「国分寺市及び近隣で、この半年間にお子さんの病気や怪我で何回医療機関を利用しましたか」という質問項目を用意しました。選択肢は「0回」「1～3回」「4～6回」「7～10回」「11回以上」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「0回」を1、「1～3回」を2、「4～6回」を3、「7～10回」を4、「11回以上」を5としました。3つ目に、「国分寺市でお子さんを育てていることについて満足していますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「満足している」「やや満足している」「やや不満である」「不満である」「わからない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「満足している」を1、「やや満足している」を2、「やや不満である」を3、「不満である」を4、「わからない」を5としました。

対象者のネットワークについて把握するために以下4つの質問項目を用意しました。1つ目に、「あなたは、育児を助け合える親しい知人や親戚が市内や近隣の市に、何人いらっしゃ

やいますか」という質問項目を用いました。選択肢は「ない」「1～3人程」「4～8人程」「9～12人程」「13人以上」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「ない」を1, 「1～3人程」を2, 「4～8人程」を3, 「9～12人程」を4, 「13人以上」を5としました。2つ目に, 「お子さんが通う保育園・幼稚園で育児について相談できる先生が何人いますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「0人」「1～2人」「3～4人」「5人以上」の4つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「0人」を1, 「1～2人」を2, 「3～4人」を3, 「5人以上」を4としました。3つ目に, 「あなたは, 同居家族の子育てに対する協力に満足していますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「満足している」「やや満足している」「どちらかという満足していない」「不満がある」「わからない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「満足している」を1, 「やや満足している」を2, 「どちらかという満足していない」を3, 「不満がある」を4, 「わからない」を5としました。4つ目に, 「あなたは, 子育てをしている中で, どのような不安や悩みがありますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「子どもの発育と発達」「子どもの遊び相手」「子育て以外の時間が持てない」「子育て・教育の費用」「相談できる人が身近にいない」「その他」「特になし」の7つでした。回答は複数回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「子どもの発育と発達」を1, 「子どもの遊び相手」を2, 「子育て以外の時間が持てない」を3, 「子育て・教育の費用」を4, 「相談できる人が身近にいない」を5, 「その他」を6, 「特になし」を7としました。

国分寺市の満足度を把握するために以下2つの質問項目を用意しました。1つ目に, 「国分寺市を住みやすい街だと思えますか」という質問項目を用いました。選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」「わからない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「そう思う」を1, 「ややそう思う」を2, 「どちらかというと思わない」を3, 「そう思わない」を4, 「わからない」を5としました。2つ目に, 「公共施設などで子ども連れへの配慮に満足していますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「満足」を1, 「やや満足」を2, 「やや不満」を3, 「不満」を4, 「わからない」を5としました。

対象者の育児消費について把握するために以下3つの質問項目を用意しました。1つ目に, 「現在, お子さんが通っている習い事の数を教えてください」という質問項目を用いました。選択肢は「0個 (通わせていない)」「1個」「2個」「3個」「4個以上」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「0個 (通わせていない)」を1, 「1個」を2, 「2個」を3, 「3個」を4, 「4個以上」を5としました。2つ目に, 「幼少期の教

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

育は大切だ」という質問項目を用意しました。選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「そう思う」を1, 「ややそう思う」を2, 「どちらとも言えない」を3, 「あまりそう思わない」を4, 「全くそう思わない」を5としました。3つ目に, 「お子さんに, インターネットに接続できる機器を持たせていますか」という質問項目を用意しました。選択肢は「はい」「いいえ」の2つでした。回答は単一回答方式でした。分析で使った最終的な選択肢は「はい」を1, 「いいえ」を2としました。

データの分析は, SPSSを用いて「クロス集計」をかけました。

3-3 仮説の検証

仮説1. 「子どもの育児環境の充実が, 育児に対する安心につながる」

- 1-1 医療機関満足度と国分寺市の満足度の連関
- 1-2 医療機関満足度と国分寺市の育児満足度の連関
- 1-3 医療機関満足度と医療機関利用頻度の連関

仮説2. 「育児のネットワークが多様なほど, 育児環境の満足度も高い」

- 2-1 育児仲間数と育児不安要素の連関
- 2-2 相談できる先生の数と育児不安要素（発育と発達）の連関
- 2-3 家族の育児協力満足度と国分寺の育児満足度の連関
- 2-4 家族の育児協力満足度と育児不安要素の連関

仮説3. 「まちに対する好感度が高いほど, 育児満足度も高い」

- 3-1 国分寺市の育児満足度と公共施設に対する満足度

仮説4. 「育児への関心が高いほど, 育児に対する消費が多い」

- 4-1 教育重要度とネット機器の有無の連関
- 4-2 習い事の個数とネット機器の有無の連関

〈棄却された仮説〉

以下の仮説は, 分析の結果有意でないと判断され, 棄却しました。

- ・医療機関に多く通院していると回答した人ほど, 国分寺市での育児満足度が高い
- ・親しい育児仲間が多いと答えた人ほど, 国分寺市での育児満足度が高い
- ・マンションやアパートに居住していると回答した人ほど, 親しい育児仲間が多い

- ・子どもの人数が多いと回答した人ほど、親しい育児仲間が多い
- ・国分寺市を住みやすいと感じている人ほど、国分寺市の遊び場や安全等に関する満足度が高い
- ・国分寺市に住んでいる期間が長いと回答した人ほど、国分寺市での育児満足度が高い
- ・現在の住居に住んでいる年数が長い人ほど、国分寺市での育児満足度が高い
- ・共働きの家庭ほど、習い事をさせている

以下では、棄却された仮説の中から代表して2つについて検証過程を提示しておきます。

表 1 医療機関の利用頻度と国分寺市の育児満足度のクロス表

		国分寺市の育児満足度					合 計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない		
医療機関の 利用頻度	0回	度数 %	2 22.2%	7 77.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
	1~3回	度数 %	29 34.1%	46 54.1%	4 4.7%	3 3.5%	3 3.5%	85 100.0%
	4~6回	度数 %	26 25.7%	60 59.4%	8 7.9%	3 3.0%	4 4.0%	101 100.0%
	7~10回	度数 %	23 31.5%	39 53.4%	8 11.0%	1 1.4%	2 2.7%	73 100.0%
	10回以上	度数 %	14 25.0%	31 55.4%	7 12.5%	3 5.4%	1 1.8%	56 100.0%
合 計	度数 %	95 29.2%	183 56.3%	27 8.3%	10 3.1%	10 3.1%	325 100.0%	

表1に基づくカイ2乗の結果、「医療機関の利用頻度」と「国分寺市の育児満足度」には有意な関連性があるとはいえなかった ($\chi^2(16) = 9.60, ns$)。

具体的に示すと、「国分寺市の育児満足度」に「満足」「やや満足」と回答した人は「医療機関の利用頻度」が「1~3回」の人が多いことがわかる。このことから、国分寺市の育児に満足している人は医療機関のみならず、他の要因にからも左右されていると考えられる。よって、この仮説は棄却される。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

表2 居住形態と育児仲間数のクロス表

			育児仲間数					合 計
			0人	1～3人	4～8人	9～12人	13人以上	
居住形態	建て住宅	度数 %	34 20.4%	92 55.1%	35 21.0%	4 2.4%	2 1.2%	167 100.0%
	マンション・アパート	度数 %	24 17.3%	87 62.6%	25 18.0%	1 0.7%	2 1.4%	139 100.0%
	公営住宅	度数 %	3 27.3%	7 63.6%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	社宅	度数 %	5 35.7%	4 28.6%	3 21.4%	2 14.3%	0 0.0%	14 100.0%
	その他	度数 %	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
合 計		度数 %	67 20.1%	191 57.4%	64 19.2%	7 2.1%	4 1.2%	333 100.0%

表2に基づくカイ2乗検定の結果、「居住形態」と「育児仲間数」には有意な関連性があるとは言えなかった ($\chi^2(16) = 2.38, ns$)。

具体的に示すと、マンション・アパートを含め、居住形態によって親しい育児仲間数が多くなるという傾向はみられなかった。よって、「マンションやアパートに居住していると回答した人ほど、親しい育児仲間が多い」という仮説は棄却された。

〈実証された仮説〉

仮説1 「子どもの育児環境の充実が、育児に対する安心につながる」

仮説1-1：医療機関満足度と国分寺市の満足度の連関

表3 医療機関への満足度と国分寺市満足度のクロス表

			国分寺市満足		合 計
			満足	不満	
医療機関への満足度	満足	度数 %	242 94.5%	14 5.5%	256 100.0%
	不満	度数 %	44 78.6%	12 21.4%	56 100.0%
合 計		度数 %	286 91.7%	26 8.3%	312 100.0%

表3に基づくカイ2乗検定の結果、「医療機関満足度」と「国分寺市の満足度」は、5%水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(1) = 15.32, p < 0.05$)。

有意確率 0.1 未満であるため、「医療機関満足度」と「国分寺市の満足度」は、有意な関連性を示している。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、国分寺市の医療環境に満足している人の内、94.5% の人が国分寺市で生活することに対して満足していることがわかる。また、国分寺市の医療環境に満足している人の内、5.5% の人しか国分寺市で生活することに対しても不満を抱いていないことがわかる。このことから、医療環境に対する満足度と国分寺市で暮らす満足度は相関があると言える。

仮説 1-2：医療機関満足度と国分寺市の育児満足度の相関

表 4 医療機関への満足度と国分寺市の育児満足度のクロス表

		国分寺市の育児満足度		合 計
		満足	不満	
医療機関への満足度	満足	236 93.3%	17 6.7%	253 100.0%
	不満	38 65.5%	20 34.5%	58 100.0%
合 計		274 88.1%	37 11.9%	311 100.0%

表 4 に基づくカイ 2 乗検定の結果、「医療機関満足度」と「国分寺市の育児満足度」は、5% 水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(1) = 34.69, p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、国分寺市の医療環境に満足している人の内、93.3% の人が国分寺市での育児に対しても、満足していることがわかる。また、国分寺市の医療環境に満足していない人の内、65.5% の人が国分寺市での育児に対して、満足していることがわかる。国分寺市での育児満足度は、医療環境に対する満足度の他にも要因があると考えられる。

仮説 1-3：医療機関満足度と医療機関利用頻度の相関

表 5 医療機関への満足度と医療機関の利用頻度のクロス表

		医療機関の利用頻度					合 計
		0 回	1～3 回	4～6 回	7～10 回	10 回以上	
医療機関への満足度	満足	7 2.6%	77 28.8%	85 31.8%	55 20.6%	43 16.1%	267 100.0%
	不満	1 1.6%	11 17.5%	16 25.4%	17 27.0%	18 28.6%	63 100.0%
合 計		8 2.4%	88 26.7%	101 30.6%	72 21.8%	61 18.5%	330 100.0%

表 5 に基づくカイ 2 乗検定の結果、「医療機関への満足度」と「医療機関の利用頻度」は、1 % 水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(4) = 8.63, p < 0.1$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、国分寺市の医療環境に満足している人は、4～6 回の利用が 31.8% と最も高いのに対し、国分寺市の医療環境に不満を抱いている人は、10 回以上の利用が 28.6% と最も高いことがわかる。一つの解釈として、医療頻度が多い（10 回を超える）人ほど、医療環境における細かい問題点や不満点に気付くので医療環境満足度が低下するのではないかと考えられる。

仮説 2 「育児のネットワークが多様なほど、育児環境の満足度も高い」

仮説 2-1：育児仲間数と育児不安要素の相関

表 6 育児仲間数と育児不安要素（育児費用）のクロス表

		育児不安要素（育児費用）			合 計
		該当	該当せず	わからない	
育児仲間数	0 人	42 63.6%	24 36.4%	0 0.0%	66 100.0%
	1～3 人	111 58.4%	78 41.1%	1 0.5%	190 100.0%
	4～8 人	29 44.6%	36 55.4%	0 0.0%	65 100.0%
	9～12 人	3 42.9%	3 42.9%	1 14.3%	7 100.0%
	13 人以上	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%
合 計		187 56.3%	143 43.1%	2 0.6%	332 100.0%

表6に基づくカイ2乗検定の結果、「育児仲間数」と「育児費用における育児不安要素」は、5%水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(8) = 28.40, p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、育児仲間が0人のうち、63.6%と6割を超える人が、育児における費用に対して不安を抱いている。また、育児仲間数が多くなるにつれて、育児不安に該当する人が減少する傾向にある。

仮説2-2：家族の育児協力満足度と国分寺の育児満足度の相関

表7 家族の育児協力満足度と国分寺市の育児満足度のクロス表

			国分寺市の育児満足度		合 計
			満足	不満	
家族の育児 協力満足度	1 満足	度数 %	109 94.8%	6 5.2%	115 100.0%
	2 やや満足	度数 %	116 86.6%	18 13.4%	134 100.0%
	3 やや不満	度数 %	31 79.5%	8 20.5%	39 100.0%
	4 不満	度数 %	12 75.0%	4 25.0%	16 100.0%
	5 わからない	度数 %	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%
合 計		度数 %	272 88.3%	36 11.7%	308 100.0%

表7に基づくカイ2乗検定の結果、「家族の育児協力満足」と「国分寺市の育児満足度」は、5%水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(8) = 21.68, p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、家族の育児協力満足度において「満足」と回答した人のうち、94.8%の人が国分寺の育児満足度に関しても「満足」と回答。また、表全体の数値の推移から、家族の育児協力満足度が減少するにつれて、国分寺の育児環境に対して不満を抱く人の割合が増加傾向にある。

仮説 2-3：家族の育児協力満足度と育児不安要素の相関

表 8 家族の育児協力満足度と育児不安要素（自分の時間）のクロス表

			育児不安要素（自分の時間）		合 計
			該当	該当せず	
家族の育児 協力満足度	満足	度数 %	22 18.8%	95 81.2%	117 100.0%
	やや満足	度数 %	42 29.6%	100 70.4%	142 100.0%
	やや不満	度数 %	18 40.0%	27 60.0%	45 100.0%
	不満	度数 %	8 47.1%	9 52.9%	17 100.0%
	わからない	度数 %	0 0.0%	5 100.0%	5 100.0%
合 計		度数 %	90 27.6%	236 72.4%	326 100.0%

表 8 に基づくカイ 2 乗検定の結果、「家族の育児協力満足度」と「自分の時間における育児不安要素」は、5% 水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(4) = 11.28, p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、家族の育児協力満足度において「満足」と回答した人のうち、自分の時間において育児不安を抱いている人の割合は 18.8% であったのに対し、家族の育児協力満足度において「不満」と回答した人のうち、自分の時間において育児不安を抱いている人の割合は、47.1% と増加している。また、表全体の数値の推移から、家族の育児協力満足度が減少するにつれて、自分の時間における育児不安に対して不満を抱く人の割合が増加傾向にあることがわかる。

仮説3 「まちに対する好感度が高いほど、育児満足度も高い」

仮説3-1：国分寺市の育児満足度と公共施設に対する満足度

表9 国分寺市の育児満足度と公共施設に対する満足度のクロス表

			公 共 施 設					合 計
			満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	
国分寺市の 育児満足度	満足	度数 %	18 18.8%	39 40.6%	10 10.4%	1 1.0%	28 29.2%	96 100.0%
	やや満足	度数 %	1 0.5%	79 42.9%	58 31.5%	11 6.0%	35 19.0%	184 100.0%
	やや不満	度数 %	1 3.7%	5 18.5%	9 33.3%	5 18.5%	7 25.9%	27 100.0%
	不満	度数 %	1 10.0%	1 10.0%	4 40.0%	3 30.0%	1 10.0%	10 100.0%
	わからない	度数 %	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	4 40.0%	3 30.0%	10 100.0%
合 計	度数 %	21 6.4%	126 38.5%	82 25.1%	24 7.3%	74 22.6%	327 100.0%	

表9に基づくカイ2乗検定の結果、「国分寺市の育児満足度」と「公共施設に対する満足度」は、5%水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(16) = 90.15$, $p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、国分寺の育児満足度において「満足」「やや満足」と回答した人は、国分寺市の公共施設に対して、「やや満足」と答えた人が40.6%、42.9%と高い数値を示した。それに対し、国分寺の育児満足度において「やや不満」「不満」と回答した人は、国分寺市の公共施設に対して、「やや不満」と答えた人が33.3%、40.0%と高い数値を示した。この傾向から、国分寺市の育児満足度が高いほど、市内の公共施設に対する満足度が高いことが言える。

仮説 4 「育児への関心が高いほど、育児に対する消費が多い」

仮説 4-1：教育重要度とネット機器の有無の相関

表 10 教育重要度とネット機器の有無のクロス表

			ネット機器の有無		合 計
			はい	いいえ	
教育重要度	そう思う	度数 %	22 10.1%	195 89.9%	217 100.0%
	ややそう思う	度数 %	4 5.3%	72 94.7%	76 100.0%
	どちらともいえない	度数 %	6 23.1%	20 76.9%	26 100.0%
	あまりそう思わない	度数 %	0 0.0%	10 100.0%	10 100.0%
合 計		度数 %	32 9.7%	297 90.3%	329 100.0%

表 10 に基づくカイ 2 乗検定の結果、「教育重要度」と「ネット機器の有無」は、5% 水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(3) = 8.12, p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、育児において教育が重要であるという質問において「あまりそう思わない」と回答した人のうち、ネット機器を子どもに持たせているという回答はひとつも無かった。全体の推移から、「幼少期の教育は重要だ」という質問に対して「どちらともいえない」と回答した人ほど、子どもにネット機器を持たせる傾向が強いことが伺える。

仮説 4-2：習い事の個数とネット機器の有無の相関

表 11 習い事の個数とネット機器の有無のクロス表

			ネット機器の有無		合 計
			はい	いいえ	
習い事の個数	0 個	度数 %	11 6.8%	150 93.2%	161 100.0%
	1 個	度数 %	5 5.4%	88 94.6%	93 100.0%
	2 個	度数 %	13 20.6%	50 79.4%	63 100.0%
	3 個	度数 %	3 30.0%	7 70.0%	10 100.0%
合 計		度数 %	32 9.8%	295 90.2%	327 100.0%

表 11 に基づくカイ 2 乗検定の結果、「習い事の個数」と「ネット機器の有無」は、5% 水準で有意な関連性が認められた ($\chi^2(3) = 16.67$, $p < 0.05$)。

上記の表から具体的にその関連性を示すと、習い事の個数が 0 個と回答してくれた人で、ネット機器を持たせている人の割合は 6.8% なのに対し、習い事の個数が 3 個と回答してくれた人で、ネット機器を持たせている人の割合は、30.0% となっている。また、表全体の推移から、習い事の数が増えるほど、ネット機器を持たせる傾向があることがわかる。

4. 結 論

本論文では、「国分寺市及び周辺地域における育児の実態」をテーマに分析してきました。

調査結果の分析から得られた知見として、まず 1 点目に、国分寺市の医療環境に対する満足度が高い保護者は、国分寺市に対する満足度と国分寺市の育児満足度が高いという分析結果が得られました。また、医療機関に多く通院している人ほど国分寺市の医療環境に対する満足度が低いことが明らかになりました。医療機関に多く通院している人ほど国分寺市の医療環境に対する満足度が高いのではないかとという仮説に対して真逆の結果を得ました。医療機関に多く通院している人だからこそ、医療機関における細かい欠陥や至らない部分に対する要望や不満が蓄積されるのではないかと考えました。つまり、国分寺市での子育てに満足している保護者たちは、“医療環境”という要素のみで国分寺市に満足感を抱いているのではなく、他の多くの要素が総合的に絡み合うことで、国分寺市で育児をすることへの満足に繋がっていると考えられます。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

2点目に、育児仲間に悩みを相談している保護者ほど、国分寺市で育児をすることに満足しているという結果も得られました。また、育児に対して家族の協力を得られていると感じている保護者ほど、育児に対する不安要素が少ないということもわかりました。以上のことから、身近に悩みを相談できる育児仲間や園の先生、そして育児に協力してくれる家族がいる環境があることが、育児をする上での安心に繋がるのではないかと考えました。

3点目に、国分寺市で育児をすることに満足している人ほど、国分寺市内の公共施設に満足しているという結果を得ました。また、単純集計の結果から、公共施設に対する満足度は「満足している」が6.1%、「やや満足している」が36.6%と、前者より後者が圧倒的に多いことがわかりました。この理由としては、自由記述の中に見られた、子どもを遊ばせる公園が少ないという意見や、公園の遊具が老朽化しているなどの意見から、保護者たちは市内の公共施設の継続的な整備を求めているのではないかと考えました。

4点目に、幼少期の教育が重要であると考えている保護者は、子どもにインターネット機器を持たせる傾向が弱いという結果を得ました。単純集計結果から、インターネット機器を購入した理由は「子どもが遊ぶため」24.3%、「子どもに強請られたため」21.6%が多いことが明らかになった。子どもに持たせるネット機器の種類についても、「携帯ゲーム機」が48.4%を占めるなどと、防犯や教育の点からネット機器を持たせるのではないことが読み取れました。関連して、子どもにインターネット機器を持たせ始める最適な時期としては、「小学校高学年」が33.1%と最も多い結果となりました。

5. 調査における課題・問題点（おわりに）

冒頭に申し上げた通り、今年度は5人という極めて少ない人数での実習となりました。人数以外にも、今年度は調査対象と調査方法が、例年の調査とは大きく異なりました。前年度までは、市内で調査エリアをある程度決めて、ポスティングでアンケートの配布を行っていました。しかし、今年度は調査対象を“市内で育児を行っている保護者”と限定していたため、前年度までと同じような方法で調査を行うと、効率も悪く正確なデータを得ることが出来ないという問題がありました。そのため、私たちは市内の保育園と幼稚園に協力を依頼し、保護者の方々へアンケートの配布をしていただくというターゲットを絞った調査方法を実施しました。施設へのアポイントメントを取るにあたって、多忙な業務の中、貴重な時間を割いて私たちの調査に協力して頂くので、できるだけ先方の都合のよい時間に連絡をとることを心がけました。また、当初の予定と比べて期間は押してしまいましたが、各施設に対して本調査の精度を上げることと本調査の協力を目的とした予備調査を実施し、着実に施設との結

び付きを得る計画を立て、実行しました。施設への訪問の際は、一方的に調査の説明をするだけでなく、先方の意見や考え方をしっかりと聞き、先方に共感の意を示すことを意識しました。

そうすることで、徐々に先方も私たちの調査に対する強い意志を認めて下さり、本調査まで進めることが出来ました。その中で、ある園長さんがこの調査を市役所の保育課へ紹介して下さい、保育課を通してより多くの施設へ円滑にアンケートを配布することも出来ました。このような取り組みの結果、最終的に10ヶ所の園の協力と、約350通の回答を得ることができ、より信頼性の高いデータを得ることが出来ました。作業の進捗状況や情報共有に関しては、5人という人数の少なさを生かし対面で多く作業を進め、更にWEB経由で情報共有が出来るシステムを活用することで、特に不自由なく行えていたと考えます。しかし、作業に対する確認回数や、進捗状況に対する危機感、問題意識に個人差があったことは否めません。話し合いをより徹底させて、個人の意識を共通化させるべきであったと思います。

最後に本調査を行うにあたり現地調査にご協力いただいた幼稚園・保育園の方々と保護者の皆様に、本調査が実現したことを重ねて感謝御礼申し上げます。

6. 付録

6-1 予備調査報告書

予備調査報告書

国分寺市の育児実態調査

東京経済大学 社会調査グループ

※本調査についてのお問い合わせは下記へお願いします。

東京経済大学コミュニケーション学部

山田晴通研究室

E-mail yamada@tku.ac.jp

Fax 042-328-7923

調査報告書

森 健斗 福田 誠 土方 恵美
久保木麻衣 寺田 詢平

1. 調査の概要

私たち東京経済大学社会調査グループは今年度の社会調査実習の課題として「国分寺市育児実態調査」を掲げ、今秋に国分寺市の幼稚園・保育園を利用されている保護者の皆様を対象に「国分寺市の育児実態調査」を行うことにしました。その準備作業の一環として、幼稚園・保育園の現状を知り、本調査の参考のための予備調査を行うことになりました。予備調査の内容は「幼稚園・保育園で行っている自然とのふれあいとその意図について」です。

今回の予備調査を行うにあたりまして、国分寺市内の幼稚園・保育園を対象と致しました。電話をかけて協力をお願いをした幼稚園・保育園合わせて 20 ヶ所のうち、実際に訪問した幼稚園・保育園の数は 8 ヶ所となり、郵送でお答え頂いた幼稚園・保育園が 1 ヶ所でした。それに加え、国分寺市役所子ども福祉部保育課に協力頂き配布したアンケートにご回答いただいた 7 カ所を合わせて、計 16 ヶ所の幼稚園・保育園の皆様にご協力を頂きました。

2. 調査の対象

調査の対象としましては原則、各幼稚園・保育園の園長先生にお願い致しました。ただし、園長先生が不在の場合のみ他の職員の方に代理としてご回答をお願いしております。

3. 回答の概要

設問ごとにご回答していただいた回答の概要は以下の通りです。

質問紙は巻末に縮小収録しております。

Q1「貴園では、自然とのふれあいにおいてどのような取り組みをしていますか」

多くの幼稚園・保育園から「お芋掘り、近隣の散歩」という回答を頂きました。これは国分寺市内には多くの畑があり、雑木林など自然にふれあえる場所が数多くあるということを表していると考えられました。また、双方の共通の狙いとして自然とふれあう事を大事にしていると感じました。特に、散歩は歩いている中で、花や虫などと接することで園児が学ぶことが多くあるのだろうと考えられました。

その他の回答として「動植物の飼育・栽培」など各園で様々な自然との触れ合いの取り組みを行っていましたが、共通して上でも述べた通りに、自然とのふれあいを通して園児が多くのことを学ぶのを期待していると考えられました。

Q2「貴園で行っている自然とのふれあいはどのような意図を持って行っていますか」

回答の中には「自然とふれあう事によって四季の移り変わりを感じてほしい」「虫など小さな生き物にも命があることを知ってほしい」というものがありました。これらから幼稚園・保育園側が自然とのふれあいの中で、園児に学んでほしいと思っていることが大きく分けて2つあると考えられました。1つめは、日本特有の四季の移り変わりを感じることで、2つめは、生命の尊さを感じてもらいたいという事であると考えられました。また、「五感を使って自然を感じることににより、その

心身の健やかな発達を促している」という回答もありましたが、全身で自然を感じることに意義があると感じました。

各園とも活動の内容には違いがみられましたが、活動の意図には共通点があると考えられました。

Q3. 「貴園ならではの考える特色をお書きください」

「貴園ならではの考える特色」を尋ねた結果、「近隣に雑木林があったり、畑の借り上げできる」「広い園庭や畑を所有している」など多くの幼稚園・保育園がその立地や園の周りの環境を生かして、工夫した取り組みを行っていることが回答から読み取れました。

多くの幼稚園・保育園の近隣には、しばしば雑木林や畑など幼児が自然と触れ合える環境が整っているのだなと感じました。また、「身近にある木という素材の特性を知り、のこぎりや金づちを使って年長児が大きな制作物を作って遊ぶ」という回答から読み取れるように、実際に自分自身の体を動かして自然とふれあうことで、頭や言葉では得られることのできない知識を習得できると考えられました。

4. 回答記入例

ご回答いただいたもの内容から代表的なものを一部表現を変えて載せています。

Q1.

- ・ 芋掘り
- ・ 野菜の栽培
- ・ 近隣の雑木林へお散歩に行き、自然の虫や花、枯葉等、自然を感じる
- ・ 散歩等の戸外遊びを通じて、四季を感じる

Q2.

- ・ 自然と触れ合うことで、四季の移り変わりを感じ、虫等の小さな生き物にも命があり、命の大切さを知る
- ・ 畑～種まき、苗づけ、雑草取り、収穫。がんばって育てた野菜がたくさん収穫、喜びを感じ、調理して、食べることで、食への関心を深める。うまく育てられなかった時は、育たなかった理由を皆で調べ考え、自然の力のはたらきを知るひとつのきっかけとし、又、食べられることへの感謝の気持ちを持つ
- ・ さまざまな遊びを通して、日本特有の四季の楽しさに実際に触れながら、その自然に興味を持てるようにしている。五感を使って自然を感じることで、その健やかな心身の発達を促している

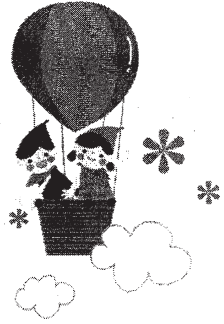
- ・ 普段、家庭や地域で自然に接することが少なくなっているため、園ではより多くの自然体験を行い、土に触れ動植物を慈しむことを実体験させてあげたいと考えている
- ・ 高度な文化、進歩する機械のゲームで遊ぶ事の多い子どもたちに、自然との素朴な幼児体験の保有を大切にしていきたいと思っている

Q3.

- ・ 広い園庭及び芝生、畑を所有している
- ・ 年中の春、秋、年長の春、秋の 4 回、同じ場所へ遠足へ出かけ”坂すべり”をしてあそぶ
- ・ 食育の充実（調理保育の実施等）
- ・ 木工体験。身近にある木という素材の特性を知り、のこぎりや金づちを使って年長児が大きな制作物を作って遊ぶ
- ・ 近隣に、雑木林があったり、近隣での畑を借り上げができるなど、保育に取り入れられやすい環境が園の立地上あることにより戸外保育をより取り入れやすい環境がある

国分寺市周辺地域における育児実態調査

下記 1~34 の質問の答えとして、当てはまるものに○をつけてください。



1. あなたの性別をお答えください。 ①男性 ②女性
2. あなたの年代にあてはまるものに○をつけてください。

- ① 19歳以下 ② 20~24歳 ③ 25~29歳 ④ 30~34歳
 ⑤ 35~39歳 ⑥ 40~44歳 ⑦ 45~50歳 ⑧ 55歳以上

3. 現在、同居されている未成年のお子さんについて、性別とご年齢、通園通学に関して教えてください。

※お子さんが4人以上いる場合は、年齢の低い順に3人をお答えください。

	性別	年齢	通園/通学先
(例)	男・ 女	3歳	通園/通学してない・ 保育園 ・幼稚園・小学校・中学校・高校以上
1	男・女	歳	通園/通学してない・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校以上
2	男・女	歳	通園/通学してない・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校以上
3	男・女	歳	通園/通学してない・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校以上

4. あなたが現在一緒に暮らしているお子さんから見て、同居している続柄の方を教えてください。

※当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ① 父親 ② 母親 ③ 祖父 ④ 祖母 ⑤ 曾祖父 ⑥ ペット(名前のついているものに限る)
 ⑦ その他()

5. あなたの現在のお住まいは、下記のどの居住形態に最も近いですか？

- ① 建て住宅 ② マンション・アパート ③ 公営住宅 ④ 社宅 ⑤ シェアハウス ⑥ その他()

6. ご家族の中で最も所得の高い方の働き方について、下記の項目に一番近いものに○をつけてください

よくあてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない

・ 勤務時間に融通がきく	1	2	3	4
・ 土日は、ほとんどが休みである	1	2	3	4
・ 休日に出勤しなくてはならないことがよくある	1	2	3	4
・ 残業をすることが多い	1	2	3	4

7. お子さんのご両親についてあてはまるものに○をつけてください。

※同居していない方については、⑦を選んでください。

- 父:①会社員 ②自営業 ③公務員 ④主婦・主夫 ⑤団体職員 ⑥その他() ⑦同居していない
 母:①会社員 ②自営業 ③公務員 ④主婦・主夫 ⑤団体職員 ⑥その他() ⑦同居していない

8. あなたは現在のお住まいに住んでから、どれくらいですか？

- ①1年未満 ②1年以上5年未満 ③5年以上10年未満 ④10年以上20年未満 ⑤20年以上

9. お子さんの通園にかかる時間と、送り迎えの手段について教えてください。

※送り迎えの手段は、あてはまるもの全てに○を付けてください。

所用時間 _____ 分程度

- ① 徒歩 ② 自転車 ③ 車 ④ 幼稚園・保育園の送迎バス ⑤ その他()

10. お子さんが通う保育園・幼稚園で育児について相談できる先生が何人いますか？

- ① 0人 ② 1～2人 ③ 3～4人 ④ 5人以上

11. 国分寺市及び近隣で、この半年間に、お子さんの病気や怪我で何回医療機関を利用しましたか？

- ① 0回 ② 1～3回 ③ 4～6回 ④ 7～10回 ⑤ 11回以上

12. お子さんのかかりつけの病院は何か所ありますか？(病院の種類は問いません)

- ① 1か所 ② 2, 3か所 ③ 4, 5か所 ④ 6か所以上

13. 国分寺市および近隣の医療機関の環境に満足していますか？

- ① 満足している ② やや満足している ③ どちらかという満足していない ④ 不満がある ⑤ わからない

14. あなたは、同居家族の子育てに対する協力を満足していますか？

- ① 満足している ② やや満足している ③ どちらかという満足していない ④ 不満がある ⑤ わからない

15. あなたは、育児を助け合える親しい知人や親戚が市内や近隣の市に、何人いらっしゃいますか？

- ① ない ② 1～3人程 ③ 4～8人程 ④ 9～12人程 ⑤ 13人以上

16. あなたは、子育てをしている中で、どのような不安や悩みがありますか？

※あてはまるもの全てに○を付けてください。あてはまるものが特にない場合は⑦を選んでください。

- ① 子どもの発育と発達 ② 子どもの遊び相手 ③ 子育て以外の時間が持てない ④ 子育て・教育の費用
⑤ 相談できる人が身近にいない ⑥ その他() ⑦ 特になし

17. 子育てについて困ったり悩んだとき、どのようにしていますか？

※当てはまるもの全てに○を付けてください。特になにもしない場合は⑨を選んでください。

- ① 配偶者や親に相談する ② 友人や子育て仲間に相談する ③ 保育園や幼稚園に相談する
④ 児童相談所など公的施設に相談する ⑤ 電話相談室などを利用する ⑥ 育児書や育児雑誌で調べる
⑦ インターネットで調べる ⑧ その他() ⑨ 特になにもしない

18. 国分寺市を住みやすい町だと思いますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ そう思わない ④ そう思わない ⑤ わからない

19. 国分寺市でお子さんを育てていることについて満足していますか。

- ① 満足している ② やや満足している ③ やや不満である ④ 不満である ⑤ わからない

20. 国分寺市の子ども遊び場や安全などに関する以下の項目について、満足していますか。

	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない
A:公園など近所で子どもを遊ばせる場所	1	2	3	4	5
B:児童館など雨の日でも子供を遊ばせる場所	1	2	3	4	5
C:公園や児童館の広さや遊具などの設備	1	2	3	4	5
D:歩道などベビーカーでの移動のしやすさ	1	2	3	4	5
E:交通事故など子どもの交通面での安全性	1	2	3	4	5
F:犯罪被害など子どもの防犯面での安全性	1	2	3	4	5
G:公共施設などで子ども連れへの配慮	1	2	3	4	5
H:子育てへ地域社会のかかわり	1	2	3	4	5

21. 下記の事柄について、当てはまるものに○を付けてください。

	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
A: 幼少期の教育は大切だ。	1	2	3	4	5
B: 自分は、いい育児が出来ている。	1	2	3	4	5
C: 家族で過ごす時間を大切にしている。	1	2	3	4	5
D: 育児には、ちゃんと叱ることが必要だ。	1	2	3	4	5
E: 幼稚園・保育園で子どもが どんなことをしているか知っている。	1	2	3	4	5
F: 子育ては「母親」の役割である。	1	2	3	4	5
G: 安心して、外遊びをさせてあげられている。	1	2	3	4	5

22. 現在、お子さんが通っている習い事の数を教えてください。

- ① 0個(通わせていない) ② 1個 ③ 2個 ④ 3個 ⑤ 4個以上

※上記の22の回答の②～④に○を付けた方にお伺いします。

習い事はどのようなものですか。 ※近いと思うもの全てに○を付けてください。

- ① 語学学習(英語・英会話など) ② 体操教室(バレエ・スイミングなど) ③ 習字教室
④ 学習塾(そろばん塾を含む) ⑤ スポーツのクラブチーム(サッカー・野球など)
⑥ 音楽教室(ピアノ・ヴァイオリンなど) ⑦ その他()

23. お子さんに、インターネットに接続できる機器を持たせていますか。

- ① はい ② いいえ

※23の回答に「①はい」に○を付けた方に、2つお伺いします。

1. あなたは、お子さんにどのようなお子さん専用のインターネット接続端末を持たせていますか。

※当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ① 携帯ゲーム機 ② 子ども用携帯電話 ③ 市販のタブレット端末 ④ その他()

2. あなたが、お子さんにお子さん専用のインターネット接続端末を持たせている理由を教えてください。

※当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ① 子どもにせがまれたから ② 子どもをあやすため ③ 子どもと一緒に遊ぶため
④ 子どもに知育するため ⑤ 子どもと連絡を取るため ⑥ その他()

24. 子どもがインターネット接続端末を使用し始めるのに最適な年齢は、いつ頃であるとお考えですか？

- ① 就学時期(0～6歳) ② 小学校低学年(7～9歳) ③ 小学校高学年(10～12歳)
④ 中学生(12～15歳) ⑤ 高校生(義務教育終了後)(15歳～)

25. 子育てについて、お考えをご自由にお書きください。

以上で終了になります。ご協力頂き、ありがとうございました。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

6-3 本調査単純集計結果

1. 性別

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	男性	16	4.7
2	女性	314	91.3
3	無回答, 非該当	14	4.1
合計		344	100

2. 年代

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	19歳以下	1	0.3
1	20～24歳	3	0.9
2	25歳～29歳	13	3.8
3	30歳～34歳	70	20.3
4	35歳～39歳	140	40.7
5	40歳～44歳	90	26.2
6	45歳～50歳	16	4.7
7	55歳以上	1	0.3
8	無回答, 非該当	10	2.9
合計		344	100.0

3. 子供の性別

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	男性	266	55.0
2	女性	202	41.7
3	無回答, 非該当	16	3.3
合計		484	100.0

3. 子供の年齢

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	0歳	28	5.79
2	1歳	55	11.4
3	2歳	50	10.3
4	3歳	57	11.8
5	4歳	72	14.9
6	5歳	66	13.6
7	6歳	52	10.7
8	7歳	21	4.3
9	8歳	21	4.3
10	9歳	15	3.1
11	10歳	12	2.5
12	11歳	17	3.5
13	12歳	5	1.0
14	13歳	3	0.6
15	14歳	3	0.6
16	15歳	2	0.4
17	16歳	1	0.2
18	17歳	1	0.2
19	無回答, 非該当	14	2.9
合計		484	100.0

4. 同居人

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	父親	299	61.8
2	母親	327	67.6
3	祖父	19	3.9
4	祖母	24	5.0
5	曾祖父母	2	0.4
6	ペット	27	5.6
7	その他	8	1.7
合計		484	100.0

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

3. 子供の通園区分

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	未通園	37	7.6
2	保育園	283	58.5
3	幼稚園	42	8.7
4	小学校	98	20.2
5	中学校	13	2.7
6	高校以上	2	0.4
7	無回答, 非該当	17	3.5
合計		484	100.0

5. 居住形態

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	建て住宅	168	48.8
2	マンション・アパート	140	40.7
3	公営住宅	12	3.5
4	社宅	14	4.1
5	その他	2	0.6
6	無回答, 非該当	8	2.3
合計		344	100.0

6. 勤務時間に融通がきく

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	よくあてはまる	12	3.5
2	ややあてはまる	80	23.3
3	あまりあてはまらない	132	38.4
4	全くあてはまらない	109	31.7
5	無回答, 非該当	11	3.2
合計		344	100.0

仕事に融通がきかないと答えた人が大半であった。
子どもと過ごす時間が取りにくいという現状が考えられる。

6. 土日はほとんど休みである

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	よくあてはまる	137	39.8
2	ややあてはまる	82	23.8
3	あまりあてはまらない	60	17.4
4	全くあてはまらない	55	16.0
5	無回答, 非該当	10	2.9
合計		344	100.0

6. 休日に出勤しなければいけないことがよくある

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	よくあてはまる	63	18.3
2	ややあてはまる	96	27.9
3	あまりあてはまらない	119	34.6
4	全くあてはまらない	56	16.3
5	無回答, 非該当	10	2.9
合計		344	100.0

6. 残業をすることが多い

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	よくあてはまる	164	49.1
2	ややあてはまる	90	26.2
3	あまりあてはまらない	57	16.6
4	全くあてはまらない	22	6.4
5	無回答, 非該当	10	2.9
合計		344	100.0

残業をすることが多いということも子どもと過ごす時間がとりにくい現状につながっているのではないか。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

7. 父

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	会社員	238	69.2
2	自営業	35	10.2
3	公務員	31	9.0
4	主婦・主夫	0	0.0
5	団体職員	6	1.7
6	その他	7	2.0
7	同居していない	19	5.5
8	無回答, 非該当	8	2.3
合計		344	100.0

7. 母

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	会社員	166	48.3
2	自営業	18	5.2
3	公務員	37	10.8
4	主婦・主夫	45	13.1
5	団体職員	12	3.5
6	その他	53	15.4
7	同居していない	4	1.2
8	無回答, 非該当	9	2.6
合計		344	100.0

8. 居住年数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	1年以内	24	7.0
2	1～5年	165	48.0
3	5～10年	96	27.9
4	10～20年	43	12.5
5	20年以上	5	1.5
6	無回答, 非該当	9	2.6
合計		344	100.0

1年以上10年未満の割合が多いことから、結婚または出産してから移住したのではないかと考えられる。

9-1. 通園時間

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	1	2	0.7
2	2	8	2.7
3	3	13	4.4
4	4	1	0.3
5	5	80	27.2
6	7	8	2.7
7	8	1	0.3
8	10	94	32.0
9	13	4	1.4
10	15	44	15.0
11	20	15	5.1
12	25	6	2.0
13	30	8	2.7
14	80	1	0.3
15	無回答, 非該当	9	3.1
合計		294	100.0

9-2. 通園手段 (複数回答)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	徒歩	117	39.8
2	自転車	168	57.1
3	車	59	20.1
4	送迎バス	8	2.7
5	その他	11	3.7
合計		363	100.0

徒歩または自転車で5分～10分程度で通園している人が多いことがわかる。

10. 相談できる先生の数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	0人	16	4.8
2	1,2人	136	39.5
3	3,4人	120	34.9
4	5人以上	62	18.0
5	無回答, 非該当	10	2.8
合計		344	100.0

幼稚園・保育園に相談できる先生が数人はいるということがわかる。

(ただし、保育園・幼稚園を通して調査を行ったため、この項目の回答にはいくらかバイアスがかかるおそれがある、と査読者から指摘がありました。)

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

11. 医療機関の利用頻度

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	0回	9	2.6
2	1～3回	88	25.6
3	4～6回	103	29.9
4	7～10回	74	21.5
5	10回以上	61	17.7
6	無回答, 非該当	9	2.7
合計		344	100.0

医療機関の利用頻度にはばらつきがあることがわかる。

12. かかりつけの病院数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	1か所	37	10.8
2	2,3か所	248	72.1
3	4,5か所	48	14.0
4	6か所以上	3	0.9
5	無回答, 非該当	8	2.2
合計		344	100.0

13. 医療機関満足度

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	105	30.5
2	やや満足	163	47.4
3	やや不満	48	14.0
4	不満	15	4.4
5	わからない	4	1.2
6	無回答, 非該当	9	2.5
合計		344	100.0

14. 家族の育児に対する協力満足度

値	質問内容	度数	相対度数(%)	
1	満足	118	34.3	家族の育児に対する協力を満足している人が大半であるが、不満を抱いている人もいる。 仕事の融通などにも関連しているのではないかと考えられる。
2	やや満足	143	41.6	
3	やや不満	45	13.1	
4	不満	18	5.2	
5	わからない	5	1.5	
6	無回答, 非該当	15	4.3	
合計		344	100.0	

15. 育児仲間数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	0人	67	19.5
2	1~3人	192	55.8
3	4~8人	65	18.9
4	9~12人	7	2.0
5	13人以上	4	1.2
6	無回答, 非該当	9	2.6
合計		344	100.0

16. 不安要素

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	発育と発達	120	34.9
2	遊び相手	73	21.2
3	自分の時間	92	26.7
4	育児費用	144	41.9
5	相談相手の有無	25	7.3
6	その他	52	15.1
7	特になし	54	15.7
8	無回答, 非該当	0	0.0
合計		560	162.8

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

17. 育児不安の解決手段

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	近親者に相談	248	84.4
2	友人と仲間に相談	199	67.7
3	園の先生に相談	153	52.0
4	公的施設に相談	15	5.1
5	電話相談	1	0.3
6	雑誌	51	17.3
7	インターネット	131	44.6
8	その他	10	3.4
9	特になし	8	2.7
10	無回答, 非該当	0	0.0
合計		816	100.0

18. 国分寺市の満足度

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	100	29.1
2	ややそう思う	192	55.8
3	あまりそう思わない	18	5.2
4	そう思わない	11	2.3
5	わからない	329	3.2
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

結果から国分寺市に満足している人が多いことがわかる。

19. 国分寺市の育児満足度

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	96	27.9
2	やや満足	184	53.5
3	やや不満	27	7.8
4	不満	10	2.9
5	わからない	10	2.9
6	無回答, 非該当	17	4.9
合計		344	100.0

結果から国分寺市で育児をすることに、満足している人が多いことがわかる。

20-A 遊ぶ場所

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	81	23.5
2	やや満足	146	42.4
3	やや不満	59	17.2
4	不満	39	11.3
5	わからない	4	1.2
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

20-B 雨の日の遊び

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	26	7.6
2	やや満足	90	26.2
3	やや不満	111	32.3
4	不満	57	16.6
5	わからない	44	12.8
6	無回答, 非該当	16	4.7
合計		344	100.0

子どもを遊ばせる場所には満足しているようだが、雨の日の遊び場に不満を抱いている人が約半数いるということが分かった。

20-C 遊具や設備

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	29	8.4
2	やや満足	121	35.2
3	やや不満	109	31.7
4	不満	55	16.0
5	わからない	15	4.4
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

20-D 移動のしやすさ

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	20	5.8
2	やや満足	51	14.8
3	やや不満	123	35.8
4	不満	120	34.9
5	わからない	15	4.4
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

20-E 交通安全

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	7	2.0
2	やや満足	53	15.4
3	やや不満	121	35.2
4	不満	110	32.0
5	わからない	38	11.0
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

移動のしやすさに不満を抱いている人が多いことから交通面に不満を抱いている人が多いのではないかと推察される。

20-F 防犯対策

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	9	2.6
2	やや満足	70	20.3
3	やや不満	122	35.5
4	不満	60	17.4
5	わからない	67	19.5
6	無回答, 非該当	16	4.7
合計		344	100.0

20-G 公共施設

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	21	6.1
2	やや満足	126	36.6
3	やや不満	83	24.1
4	不満	24	7.0
5	わからない	75	21.8
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

20-H 地域社会

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	満足	25	7.3
2	やや満足	128	37.2
3	やや不満	62	18.0
4	不満	13	3.8
5	わからない	99	28.8
6	無回答, 非該当	17	4.9
合計		344	100.0

21-A 教育重要度

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	217	63.1
2	ややそう思う	76	22.1
3	どちらともいえない	26	7.6
4	あまりそう思わない	10	2.9
5	全くそう思わない	0	0.0
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

21-B 育児自信

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	6	1.7
2	ややそう思う	68	19.8
3	どちらともいえない	188	54.7
4	あまりそう思わない	53	15.4
5	全くそう思わない	14	4.1
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

21-C 家族と過ごす時間

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	154	44.8
2	ややそう思う	114	33.1
3	どちらともいえない	53	15.4
4	あまりそう思わない	6	1.7
5	全くそう思わない	1	0.3
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

家族と過ごす時間が大切であると答えた人が大半ではあるが、勤務時間などもあり、家族と過ごす時間をあまりとれていないということがわかる。

21-D 叱ることも必要

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	215	64.6
2	ややそう思う	88	23.5
3	あまりそう思わない	23	6.5
4	そう思わない	3	0.7
5	全くそう思わない	0	0.0
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

21-E 子供の活動を知っている

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	87	2.6
2	ややそう思う	176	14.2
3	あまりそう思わない	51	29.4
4	そう思わない	15	26.5
5	全くそう思わない	0	23.0
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

21-F 子育ては母親だ

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	9	2.6
2	ややそう思う	49	12.4
3	あまりそう思わない	101	29.4
4	そう思わない	91	26.5
5	全くそう思わない	79	23.0
6	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

そう思わないと答えた人が全体の約80% いることがわかり, 父親, 祖父母との協力が必要と考えている人が大半である。

21-G 外遊び

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	そう思う	28	8.1
2	ややそう思う	86	25.0
3	あまりそう思わない	118	34.3
4	そう思わない	78	22.7
5	全くそう思わない	18	5.2
6	無回答, 非該当	16	4.7
合計		344	100.0

防犯対策で不満を抱いている人が多かったため, 安心して外遊びさせることができないのではないかと。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

22-1 習い事個数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	0個	161	46.8
2	1個	93	27.0
3	2個	63	18.3
4	3個	10	2.9
5	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

23. ネット機器の有無

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	はい	32	9.3
2	いいえ	297	86.3
3	無回答, 非該当	15	4.4
合計		344	100.0

23-1. ネット機器の種類

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	携帯ゲーム機	15	46.9
2	子供用携帯電話	3	9.4
3	市販のタブレット端末	11	34.4
4	その他	2	6.3
5	無回答, 非該当	1	3.1
合計		32	100.0

23-2. 買った理由

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	おねだり	8	21.6
2	あやすため	3	8.1
3	遊ぶため	9	24.3
4	知育するため	5	13.5
5	連絡を取るため	4	10.8
6	その他	8	21.6
7	無回答, 非該当	0	0.0
合計		37	100.0

24. インターネット保有最適時期

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	就学時期	8	2.3
2	小学校低学年	48	14.0
3	小学校高学年	114	33.1
4	中学生	68	19.8
5	高校以上	61	17.7
6	無回答, 非該当	1	0.3
合計		344	100.0

6-4 本調査自由記述

- ・自由記述をまとめ、いくつかの項目ごとに分けて掲載させて頂きました。尚、各項目の設定と分類は調査員の1名が行い、その後調査員全員で全体の確認と訂正を致しました。
- ・一部修正を入れたものがあります。内容としては、漢字の間違いや句読点の位置などです。

文章の表現自体の修正は行っておりません。お答え頂いたままの状態に掲載しております。

本調査の自由記述は Q.25 です。多くの方々に記述して頂きました。

心配せずに子どもが遊べる地域社会

◆国分寺市の道の幅について

- ・国分寺市は歩道も狭い所が多く、ベビーカーの使用が怖い。
- ・国分寺市内においては歩道がもっと広いといいなと思います。
- ・国分寺は道路の幅が狭いので、安心して歩かせられません。

◆防犯など

- ・不審者などが心配、おまわりさんがいつもいてくれたら。
- ・国分寺の道路は歩きたばこをしている大人が多すぎる。
- ・自宅近くの住宅地や畑あたりは外灯が少なく暗すぎるので、登下校が不安です。
- ・今の時代は子どもだけで外に出せないのが可哀想。

◆社会全体について

- ・親がそんなに心配せず外で遊べる地域社会になることを願います。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

- ・子どもを持ったことで、外出先で肩身を狭く感じることが多い。
- ・最近同世代の母親が子どもと無理心中をして亡くなった話を聞き心が痛んだ。
市町村で対策をしていけたらいいと思う。
- ・出産率が低いのは子育てをしにくいこの状況を変えていかなければ減り続けるでしょう。
- ・子どもをあたたかく見守っていける社会になってほしい。
- ・社会全体としての「子育て」意識が低いと思います。

◆「遊べる環境」など

- ・雷親父のような人が近くにいるといいなと思います。
- ・駐車場のある子どもの遊び場が少ない。近隣に大型商業施設が欲しい。
- ・子連れで外食ができる場所が少ない。
- ・日曜に利用できる場所、イベントが増えてほしい。

◆施設について

- ・保育園は数も多く、近隣の市よりは入園し易く有難いが、民営化が不安。
- ・認可保育園は保育料に差があって不公平。
- ・公民館の利用、市の活動が減ってきている（市の予算の減少）

遊びの環境について

◆公園について

- ・公園でボールを使えないとか、大声を出せないのはおかしい。
- ・公園の遊具が古いものが多い。
- ・公園が少ない。
- ・色々な年代の子ども達が集まって遊べる（外で）場所が少なすぎます。
- ・公園で思いきり遊ばせたくても、ボール禁止の所が多く、自由に遊べません。

◆社会について

- ・せめて挨拶ぐらいは出来る社会になってほしいです。
- ・少子化の原因は、日本の社会での子育てのしにくさ。
- ・子育て（親になるということ）の勉強も、中学・高校の教育にあるべきではないか。
- ・社会全体が忙しく、子どもに対して冷たいと感じます。

人間関係について

◆育児仲間について

- ・子どもを通して両親も友達が増えて楽しい。
- ・子育ては家族だけでなく、周りの協力も必至。
- ・社宅なので友達が多い、以前都内に住んでいたが、国分寺市は乳幼児向けの事業が少ない

◆育児における男女の関係について

- ・社会がまだ育児の中心は母親と考えており働きながら子育てしている身としては辛い。
- ・子育てをする際男女問わず働き方を柔軟に変えていける社会であってほしい。
- ・子育ては母だけではなく、父や祖父母、園の先生方や近所の方の協力でやってゆくものだと思います。母一人で悩むおうちが多い。

◆子育て負担の考え方について

- ・子どもは社会の皆で育てる存在だと思います。
- ・自分の子も他人の子も同じ！ という考え方を大事に、日頃から人間関係を築いて居ます。
- ・身内の協力なくしては難しいと思う。「絶対的な存在」も必要。自「子」中心な親にならないように気を付けたい。
- ・子育ては母親だけがするものではなく、父親、祖父母、保育園の先生など、子どもが関わる大人の人間すべてが行うことが理想だと思います。
- ・育児は親だけではできなくて、お友だち、保育園や学校の先生、地域の方の協力の上に成り立っています。

父親について

- ・子育ては両親がするものであると思う。
- ・母親の産休、育休などの支援は充分とは言えないが、認めてもらえるようになってきたが、父親の仕事場ではまだまだ子育て支援での認識がないように感じる。
- ・幼い子のいる家庭では、父親が朝早く出ていき、子どもが寝てから帰ってくるような生活は子どもにとってよくないと感じる。
- ・母親だけでなく、父親も積極的に関わっていくことが必要だ。

◆国分寺の「古さ」に関する意見

- ・国分寺はとても古い。洗練された店等、大人が楽しめる所がないです。
- ・未だに、一歩外で一息……という所が思いつかないです。
- ・国分寺市の児童館や支援施設には不満はないが、老朽化が目立つ。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

◆調査に対する意見

- ・調査，研究課題として，大工場が多く財政豊かな府中市などとの比較，及び保育園の民営化が進む国分寺市内での今後の経年変化としての満足度調査など行われ研究成果をあげられることを期待したい。
- ・レポートをまとめる皆さんが子育てをする頃には少し良くなることを祈ります。

◆相談について

- ・子どもの話は保育園の先生方にも相談しやすいが，子ども以外（旦那や親 etc）だと，話をしてもいいのかと考えてしまう。
- ・高齢出産だと，親の介護（まではいかないものの）などの相談とかも，どこかでしたい。
- ・家庭についてトータルで話が出来る場があればと思う。

◆関係機関への意見・要望など

- ・認可保育園の延長保育時間の短さを解消してほしい。
- ・国分寺市の子育て支援センターを充実させてほしい。
- ・東村山市は，きれいで不公平さを感じる。
- ・学費等が安くなったりすれば，もっと子どもがたくさん欲しい。
- ・もっと病後児保育が充実すればいいと思う。
- ・子育てといっても1人目と2人目では違ってくる。1人目は不安でいっぱい。初めてでもサポートしてくれるような環境があればいいのに。
- ・子育てをする権利を認めてほしい。子育てのスキルを学ぶ場がもっと広く提供されることを願います。

子育てについての考え方

◆子どもについての希望

- ・善悪の判断ができるように育ててほしいと考えております。
- ・身内やご近所と関わることで，コミュニケーション能力を高めてほしい。

◆子育ての環境，社会について

- ・今，子育てをしている中で，育てにくさ，というか環境の悪さに疲れてしまいます。
- ・子どもにやさしい目を持ってほしい。育児経験がない大人，小さい子どもと接してこなかった大人が増えて他人事と思う風潮に不満がある。
- ・子育てに関して世論も過剰になっている気がする。
- ・0～3才以上の育児情報が乏しい。情報が多すぎても振り回されるようで，育児しにく

い。

- ・母親が笑顔でいられる周りの助けや環境・サービスが必要。地域づくりが必要と子を持って強く感じるようになった。
- ・児童館，図書館などが古く，より子育てしやすい環境を作り国分寺にお願いしたいです。
- ・保育所の待機児童については，産休明けの人の分くらいはなんとかしてほしいものです。
- ・学童保育も現代社会に合わせて，もっと進歩した内容の保育にするべきではないかと思えます。ただ，時間内だけの場所提供だと子どもの成長にどう影響が出てくるのか，この先とても不安に思っています。
- ・核家族化やメディアによって育児スタイルの個性がいろいろになってきている一方，「～すべき」は未だ健在，働く母には窮屈です。又，女性の社会進出に伴い，子どもは自然の原理から遠ざけてしまうのも関わらず，フォローが不十分な社会と感じます
- ・子育ては働く以上に大変なこと。特に主婦は社会から隔離されているし，大変な育児をしているのに職業は無職扱い。安心して働ける環境がほしい。
- ・子育ては地域でできたらと思っているが難しいと感じる。大人である私でもわからないのにどの人が良い人・悪い人を子どもに教える難しさ。学生の自転車の乗り方は危険。
- ・公益社団法人スコール家庭教育振興協会でも母親のありかたを勉強

◆心がけていること

- ・子どもたちが安心して元気に暮らせるようにと願って仕事をし，団欒を大切にしています。お金がなくても，スキンシップを取ったり，一緒に泣いたり，笑ったりはできるかな... と。
- ・子育てについては特に堅苦しく考えていないので，他の子は他の子！ 自分の子は自分の子!! でマイペースにやっています。
- ・火の扱いや交通安全など命に関わることについては，子どもにしっかりと教えることが大事。他のことについては，子どものせいかなども考慮しながら，その子のペースで親が向き合っていくようにしたい。
- ・人との関わりについては，相手がどんな気持ちかを感じ取る練習をさせていくことを重視している。
- ・なんといっても愛情を感じさせることを大事にしている。
- ・子どもの志を優先。本当に大切なこと（アブナイ）だけ叱る。夫婦喧嘩は見せない。常に笑顔
- ・完璧主義ではいけない。
- ・人生の中で一番難しく，大変な仕事である。その分，得るもの，喜びも大きい
- ・お菓子でもゲーム機などでも，上の子がいると，どうしても下の子が早く覚えてしまう。

国分寺市及び周辺地域における育児実態調査

親としては、まだまだだと思っても仕方ない時があって、そこをうまく躲したり、先延ばしにしたり出来る親になれたらなあと思う。

- ・他人にはほしくない失礼な発言振る舞いは子どもにもしない。「こんな子にしたい」ではなく「どんな性質の子か」把握する。子育ては自立させること。
- ・周りの助言はもちろん必要だが、子育てはまず、子どもと親がしっかりと向き合い理解しようと努力する事が大事だと思います。
- ・(子育てには)夫婦間で話し合うことの大切さ、友人へ素直に悩みを話せることの大切さを感じています。
- ・叱ったことが子どもに伝わるには、感情的にならず、(話が聞けるなら)教えてあげるよとよく聞いてくれます。甘やかすというより、他人よりも叱ったり、教えてあげて(もちろん愛情も与えて)子どもが将来困らなければいいです。
- ・親の役目は子どもを自立させること。
- ・仕事と育児の両立は難しいですが、毎日大好きなことは伝えています。休日は子ども中心の生活にして広い公園で自然に触れられるよう心掛けています。
- ・自由かつ子どもが自主的にやりたいと主張したものをやらせたい。見分を広めさせてあげたい。
- ・母が笑顔で元気であることが子どもが一番嬉しいと思う。
- ・時間的、環境的に制約がある中で、いかに子どもの特性をいかしてのびのび育てていけるか、が大事だと感じています。
- ・世の中、子どもに対してに限らず、色々な考え方の人がいます。要はいかに活用し、かわしていき、楽しんでいくかなのではないかと。
- ・育児は育自だと思う

◆習い事など

- ・習い事は本人が希望するまでは無理にやらせない。
- ・宿題等は本人任せにしており親は五月蠅く言わないようにしている。
- ・学校の事は先生に一任しており、学校のやり方に任せている。

◆他人との意識の差

- ・育児をする身となって感じるようになったのが親同士の育児に対する意識の差。それぞれの親が育った環境も身につけた考えも様々ではありますがこれが意外とやっかいに感じる。例えば熱や病気の子を休ませずに通わせると非常に迷惑。

◆不安について

- ・共働きの為、現在は保育園に通っているのですが、小学校へ行くようになってからの、長い休み（夏休み、冬休み、春休み、学級閉鎖など）の時の過ごし方に不安があります。宿題などでも自分で積極的にやる子ならいいと思いますが、生活がガラガラしてしまいそうでとても不安です。
- ・子どもを産む前に色々知っておけば良かった。知る機会があればいいと思う。（子育てについての情報や母体の変化）

◆「感謝」について

- ・人生の喜び、子は福の神、親に感謝、育児は育自、母は偉大、妻に感謝、学校、保育園、地域に感謝。

◆医療機関について

- ・医療機関府中が近いから良い環境が整っていますが、国分寺市単体で見ると充実しているとは言えません。

◆仕事と子育てについて

- ・フルタイムで仕事についているので、子どもに時間が持てない
- ・フルタイム勤務で子どもと接する時間が足りないといつも感じています。まだ幼少のため一緒に入れる時間はできる限り子どもと向き合うよう努めています。
- ・仕事の融通がきかず、少し体調が悪くても無理に保育園へ登園させなければならない。
- ・仕事と家事・育児の両立が大変。1日24時間では足りない。
- ・子育てと仕事の両立がとても難しく思っています。保育園への迎えをはじめ、園が休みの時などの両親の調整に苦労します。